2020 年 6 月 12 日

業界トピックス（鉄鋼）

日中投資促進機構

■ 鉄鋼需要は、新型コロナ影響に伴い世界全体で減少する中、中国は対前年微増見込み。
■ 鉄鉱石は中国建設需要回復･供給減で足元需給タイト化。原料炭は需給緩和傾向。
■ 「原料高・鋼材安」に新型コロナ影響が加わり、鉄鋼各社は更に厳しい状況に。

１．世界の鉄鋼需給について

2020 年 6 月 4 日に公表された WSA(世界鉄鋼協会)によると、新型コロナウイルスの影響による個人所得の減少、設備投資計画の見直し等により、2020 年の世界鉄鋼需要は 16.54 億ﾄﾝと、対前年▼1.13 億ﾄﾝと大幅な減少を見込む。うち、中国については、新型コロナの影響からの早期回復により､2020 年で 9.17 億ﾄﾝと対前年比プラスとなる見込み。

世界鋼材見掛消費（百万ﾄﾝ）　WSA 2020年6月

	2018年	2019年		2020年		2021年	
	実績	見込み	対前年	予測	対前年	予測	対前年
中国	836	908	+71	917	+9	917	+0
インド	97	102	+5	83	▼18	96	+13
ＥＵ	168	158	▼10	133	▼25	147	+14
米国	100	98	▼2	75	▼22	80	+4
日本	65	63	▼2	51	▼12	55	+4
世界計	1,708	1,767	+59	1,654	▼113	1,717	+63

２．原料動向について

新型コロナ影響で中国鋼材生産が弱含み、一時は鉄鉱石需要も緩和傾向になったが、現在では欧州や日本の製鉄各社が生産を縮小するなか､中国では建設向けを中心に鉄鋼需要が増加し、鉄鉱石需要も急激に回復。他方、供給側では新型コロナ影響による鉱山稼働率低下、伯/Vale 社の 1-3 月の豪雨影響等により、鉄鉱石需給は足元タイト感が強まっている。原料炭需給は、供給面では豪州炭を中心に昨年後半より順調に推移。需要面では世界経済停滞を背景とした鋼材市況の低迷､インドにおける原料炭需要の鈍化に加え、3 月以降は新型コロナ影響により世界的に鋼材需要が減退し、原料炭需給は急速に緩和している。なお、燃料油は、原油市況の大幅下落により、現在でも低位で推移。

３．国内鉄鋼各社の経営環境

2019 年は､米中対立の長期化･中国経済成長減速等を背景とした鉄鋼需要減の一方、中国景気刺激策を背景とした主原料価格の高止まりで「原料市況高・鋼材市況安」の状況となり、各社収益が悪化した。2020 年に入り、鉄鉱石価格が高止まりする中で新型コロナ影響、新興国為替安による購買力低下が加わり、一層厳しい状況に。高炉の休廃止を含む生産設備の構造対策による国内製造拠点スリム化、国内外事業の選択と集中など、従来にはないレベルで構造対策が進められている。

鉄鋼２社の2019年度決算（億円）

	日本製鉄			JFEHD		
	2019年	2018年	対前年	2019年	2018年	対前年
売上収益	59,215	61,779	▲4.2%	37,297	38,737	▲3.7%
事業利益	▲2,844	3,369	-	379	2,321	▲83.7%
当期利益	▲4,236	2,576	-	▲1,933	1,635	-

以　　上

［ご注意］

1. 秘密保持：本誌記載の情報の貴社への開示は貴社の守秘義務を前提とするものです。当該情報については貴社内部の利用に限定され、その内容の第三者への開示は禁止されています。
2. 著作権：本誌記載の情報の著作権は原則として当機構に帰属します。いかなる目的であれ本誌の一部または全部について無断で、いかなる方法においても複写、複製、引用、転載、翻訳、貸与等を行うことを禁止します。
3. 免責：本誌記載の情報は、当機構が信頼できると考える各方面から取得しておりますが、その内容の正確性、信頼性、完全性を保証するものではありません。
4. 本資料は、情報提供のみを目的としたものであり、当機構との取引の勧誘を目的としたものではありません。